第121回日本皮膚科学会総会

会期：2022年６月２日（木）～５日（日）
会場：国立京都国際会館　〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
会頭：佐山　浩二 先生（愛媛大学大学院医学系研究科）

イブニングセミナー８

ハイブリッド開催
（現地開催・Live配信）

エビデンスに基づく 爪白癬の病型別治療戦略

日　時　6月2日（木） 17:50～18:50

会　場　第10会場（国立京都国際会館 1Fアネックスホール2）

座　長
東京医科大学
皮膚科学分野 主任教授
原田 和俊 先生

エフィナコナゾールによる爪白癬治療 －外用療法という選択肢－

演　者
帝京大学医学部附属溝口病院 皮膚科
帝京大学 医真菌研究センター
下山 陽也 先生

爪白癬を正しく知って、治療する ～明るく歩ける未来へ～

演　者
順天堂大学 皮膚科
木村 有太子 先生

本セミナーはハイブリッド開催です。
いずれかの方法でご視聴ください。

現地でご視聴いただく場合 ▶ 整理券の配布はございません。参加希望の方は直接会場にお越しください。

Live配信でご視聴いただく場合 ▶ 本セミナーへのご参加・ご視聴には、大会への参加登録が必要となります。
詳細は、大会ホームページ（https://jda121.jp/）をご確認ください。

共催：第121回日本皮膚科学会総会／科研製薬株式会社

エフィナコナゾールによる爪白癬治療
―外用療法という選択肢―

帝京大学医学部附属溝口病院 皮膚科／帝京大学 医真菌研究センター

下山 陽也 先生

2014年にエフィナコナゾールが発売され、爪白癬治療に「外用療法」という選択肢が生まれ、これまでよりも多くの患者に爪白癬治療を提供できるようになった。それでもなお、爪白癬治療の基本は抗真菌薬の内服療法である。これは本邦を含め、様々なガイドラインにおいても言及されている。また、単純比較はできないが、外用薬の治験等のデータでは内服薬に比べ完全治癒率が低いことも知られている。しかし、内服を希望しない患者や、副作用、併用禁忌・薬物相互作用の問題から内服治療ができない患者にとっては、外用薬が爪白癬治療において非常に重要な役割を果たすことになると言えよう。本講演では、内服治療ができない患者の爪白癬を治癒に導くKey factorとして、1.爪白癬を正しく診断すること、2.患者アドヒアランスの向上に努めること、の2点を挙げ、当院でのエフィナコナゾールによる爪白癬治療成績を中心に爪白癬外用療法について考察する。

爪白癬を正しく知って、治療する
～明るく歩ける未来へ～

順天堂大学 皮膚科

木村 有太子 先生

「歩く」ということは人間の生活において非常に大切なことである。爪は、指趾先端の保護や指先の微妙な感覚などに重要な役割を果たしている。足趾の爪は歩行時・立位時に足を安定させる役割があり、爪に異常があると下肢機能が低下し、歩行障害や転倒の原因になる。
また、爪はさまざまな外的刺激により変形・損傷、感染を起こしやすく、爪のトラブルは痛みや歩行障害だけでなく、糖尿病患者や透析患者の壊疽に直結することもある。フットケアの実践は足を清潔にし、皮膚および爪をよく観察し、微小あるいは軽度な病変を早期にみつけ、治療することである。足潰瘍や壊疽の引き金にもなり得る爪白癬は正しい診断の元、難治化、重症化する前に治療を行うべきである。早期から積極的に爪白癬の治療を行うことは、今後起こりうる重篤な病態を予防することができ、足の健康を維持することにもつながる。